



おいしかったです。高梁のB級グルメには、こんにやくや、ゆずを使ったものもあるそうですが、いつか食べてみたいと思います。

松原町にもピ

オーネや神原うどん、高梁紅茶などの特産品があつて、いろいろなイベントにも出品されてうれしく思います。たくさんさんの魅力的な特産品の良さを広めることができれば、たくさんの方が高梁市を訪れ、このことは地産地消を進め、安全で環境に優しい食料生産にもつながると思います。高梁の特産品の良さを伝えたり、知名度を高めるために、どのような取り組みを考えていますか。

近藤市長

高梁のB級グルメの「インディアントマト焼きそば」を給食で食べて、大変おいしかったようですが、これを考えた人、作った人への感謝の気持ちを忘れないようにしてください。また、これに使われた材料は、すべて高梁産で、地産地消を考えながら作っています。

高梁の特産品といえば、「ピオーネ」や「トマト」などがありますが、商工会議所では、高梁の産物を使用し、市内で加工・製造された食品の中で、

より優れた物を「備中高梁ブランド」として売り出しています。「高梁紅茶」もそのひとつで、「ゆべし」や「鮎の甘露煮」、高梁のフルーツを使ったお菓子などもあります。

このように、多くの特産品を大勢の人に知っていただき、買って食べていただくために、東京や大阪など県内外の観光イベントで販売、PRして来ました。

そして、皆さんが、地域の特産品をしっかり食べて、そのおいしさや良さを友達や親せき、また、観光客の方々に伝えることが大切だと思います。このことが、地産地消でもありませんし、特産品を多くの人を知るきっかけになり、高梁を訪れてくれることにつながると思います。

松尾 優佑 議員  
富岡 秀斗 議員  
福地小

ホタルの住めるまちづくり

福地は、毎年6月にはホタルを見にたくさんの方が訪れます。

学校では「ホタルを守ろう」と、



平成12年から総合的な学習でホタルについて調べています。きれいな川にすむカワナガエサであることが分かり、

また、読みたい本が学校の図書室で見つからないときは、学校司書の先生を通じて、1か月に200冊まで貸し出しています。

今後、児童の皆さんが利用しやすい移動図書館となるよう、考えたいと思います。

黒川 紫乃 議員  
石田 早紀 議員  
成羽小



被災地復興支援について

成羽小学校では「被災地にエールを」を合言葉に、4月から何か自分たちにできることで、被災地復興に協力できないかと児童会で話し合い、空き缶集めをしています。

児童会通信で家庭へも呼びかけて、協力をお願いしています。

また、運動会で手作りクッキーを販売し、それぞれ集めたお金は、成羽小学校に福島県から転校して来ている4人の出身校へ送って、役立ててもらおうと計画をしています。

これからも「被災地のために自分たちでできることは何か」を考えながら、取り組みを進めたいと思っています。

そこで、高梁市では、今後どのよ

毎月、福地川の水の様子を調べています。

調査の結果、きれいな水にすむ生き物がたくさんいて、科学的な検査でもきれいだと分かりました。また、ホタルに詳しい先生の話も聞いて勉強したり、ホタルを大切にとポスターを作って、見物に来られる人へ呼びかけています。

市内には、福地以外にもホタルが飛び交う地域は、たくさんあります。高梁の宝物のホタルが、これからもずっとすめる川の環境を守るため、市の考えを聞かせてください。

近藤市長

長年にわたって地域の人とともに、福地川の生物や水質調査など、ホタルの生息環境を守る積極的な活動をしていただき、ありがとうございます。

市は、環境保全の意識を高めるため、「環境フェア」をはじめとして、いろいろな機会に、市民の方へ水環境を含めた環境保全の取り組みを紹介したり、下水道などの整備による生活排水対策、工場・事業所からの排水対策や水質調査などによる水質監視を行っています。

水質調査は、市内の主要な河川20か所を対象に、毎年実施しています。また、毎年、ホタルの生息状況も調査していますが、市内16河川、24地域で生息が確認でき、今後も続けていきたいと思っています。

環境問題の多くは、私たちの日常

うな被災地支援を計画されているのか、私たちの活動のヒントになるような活動はあるのか教えてください。

近藤市長

「被災地にエールを」を合言葉に、心のこもった支援をされているとお伺いし、こうした取り組みは、被災地の皆さんの心に必ず届き、生きる勇気を与えてくれるものだと思います。心から感謝いたします。

市は広く市民の皆様へ義援金や、毛布、バスタオル、トイレットペーパーなどの救援物資の提供を呼びかけ、被災地へ届けました。

また、市が災害用に備蓄している毛布や簡易トイレもいち早く届けました。

市役所からは、消防職員による被災地での救急活動や上下水道課職員による給水活動、そして健康相談のため保健師を派遣しました。

6月からは、放射線などの影響で全町民が福島県二本松市へ避難されている福島県浪江町へ、役場の仕事をお手伝いするため2人の職員を派遣し、来年3月まで継続する予定です。

また、地震や津波で住む家が無くなった人などを、市営住宅に受け入れる支援を行っています。

10月31日現在、20世帯67人が被災地から高梁市へ避難されており、安心安全な生活が1日も早く取り戻せるよう、市民の皆さんに協力をいただきますながら、物心両面で支援をしています。

生活や事業活動における環境への負荷が大きな原因であると言われていきます。

このため、市民の皆さんが主体となって、環境に優しい行動に心がけることが重要です。

また、自分が住んでいる近くの河川や水路の清掃活動があれば、積極的に参加し、川に親しむことの大切さを今一度考えてみてください。

山田 翔香 議員  
加藤 優紗 議員  
有漢東小

移動図書館について

本を読むと物語の主人公と一緒に喜んだり、悲しんだり、また、今まで知らなかったことをたくさん知ることが出来ます。

有漢東小学校では、みんなで1年間の目標冊数を決めて、火曜日と木曜日の朝を読書の時間にしています。

このように読書活動に積極的に取り組んでいると、学校の図書室だけでなく、他の所にある本も読みたくなります。しかし、有漢図書室をはじめ、他の図書館は学区外にあつて、たびたび行くことができません。



はじめ、他の図書館は学区外にあつて、たびたび行くことができません。高梁中央図書館の移動図

三浦 瑠璃 議員  
佐藤 香織 議員  
金藤 恵樹 議員  
吹屋小

歴史と伝統のある吹屋小学校は、閉校後どのような形で残されるのか

吹屋小学校は、今年度で閉校し、私たちは最後の卒業生になります。校舎が明治33年に、本館は明治42年に建てられ、百年以上も経ち、現在日本に残っている現役木造校舎の中では、最も古いと聞いています。

思い出深い校舎を、この学校で勉強した人たちのために残すとともに、木造の校舎を見たことがない人たちに、昔はこんな校舎で勉強していたことや、平成23年度まで使われていたことを教えてあげることができたら、とても素晴らしいことだと思います。



平田教育長

学校が閉校することは、たいへん寂しいことですが、吹屋小学校では今年、「校舎に感謝、地域に感謝」という目標を立てて、校舎に感謝の思いを込めてきれいに磨き、特に廊下は顔が映るくらいになつていて、大切に使うてくれることに感謝しています。



本は、「心の栄養」と言われています。読書は、知識や心が豊かになり、感性を磨き、考える力、表現力を高めてくれます。そして多くの本を読むことは、たいへん大切なことで、とても素晴らしいことだと思います。市は、子どもたちが自主的に、読書活動ができる環境づくりも必要なことと考え、ブックスタート事業として乳児健診時に絵本を贈り、小学校入学を機に本を贈呈するセカンドブック事業を行っています。また、「子ども読書活動推進基本計画」をつくり、家庭や学校、地域が協力して、子どもたちの読書活動が進むように取り組んでいます。移動図書館は、図書館へ来られない方への公平な図書サービスを提供するために、毎月5回、平日に市内15か所を巡回しています。